

令和4年度 滝沢市男女共同参画社会づくりのための意識調査 集計結果

目的

現行の滝沢市男女共同参画計画が令和4年度をもって終了することから、市民の意識の変化や課題を把握し、次期計画策定にあたっての行政施策の参考とするため。

調査時期

令和4年9月

調査対象

市内に居住する18～19歳、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代以上の各区分の男女1,000人ずつ、計2,000人（無作為抽出）

回答数

738件（回収率36.9%）

H26年度調査：33.3%

滝沢市

(1)性別

	実数	構成比
女性	447	61%
男性	286	39%
答えられない	5	1%
合計	738	100%

H26（平成26年度 調査結果）	
197	59%
134	40%
2	1%
333	100%

(2)年齢

	実数	構成比
10歳代	16	2.2%
20歳代	76	10.3%
30歳代	116	15.7%
40歳代	105	14.2%
50歳代	137	18.6%
60歳代	99	13.4%
70歳代以上	189	25.6%
合計	738	100%

H26	
-	令和4年4月から成人年齢が18歳に引下げられたことにより、18歳以上（18、19歳）を調査対象に追加しました。また、滝沢市における高齢化率が19.91%（H26年6月）から26.40%（R4年7月）と上がっていることから、60歳代と70歳代以上の項目を分けました。
12.3%	
20.2%	
16.3%	
19.6%	
31.6%	
-	

(3)結婚の有無

	実数	構成比
結婚している(事実婚含む)	531	72.0%
結婚していない	134	18.2%
結婚していたが、離別・死別した	73	9.9%
その他	0	0.0%
合計	738	100%

(4)同居している家族(あてはまるものすべて回答)

	実数	構成比
なし(一人住まい)	93	10.8%
曾祖父母世代	0	0.0%
祖父母世代	26	3.0%
親世代	164	19.1%
自分の兄弟姉妹	52	6.1%
自分の子世代	334	38.9%
自分の孫世代	27	3.1%
自分のひ孫世代	2	0.2%
その他	161	18.7%
合計	859	100%

その他回答

・配偶者
・所有する隣家に子と孫
・同世代
・同期
・別居生活
・同居人

(5)職業

	実数	構成比	H26
農林業	14	1.9%	0.6%
商工サービス業	21	2.9%	4.0%
自由業	16	2.2%	1.8%
管理職	29	4.0%	6.1%
事務職	71	9.7%	7.0%
労務職	40	5.5%	7.6%
専門・技術職	127	17.4%	14.3%
非常勤・パート	126	17.3%	19.5%
専業主婦(主夫)	89	12.2%	12.5%
学生	27	3.7%	2.1%
無職(年金・金利生活者)	140	19.2%	19.2%
その他	29	4.0%	5.2%
合計	729	100%	

(6)(70歳未満のご夫婦あるいはご夫婦とそのほかの家族で暮らしている方)

現在の共働きの有無

	実数	構成比
共働きである	257	65.9%
共働きでない	133	34.1%
合計	390	100%

は最高値

問1 「男らしく」「女らしく」ということについてどう思いますか。

	全体		男		女		性別回答無	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
必要である	196	27%	99	35%	97	22%	0	0%
必要でない	219	30%	78	27%	139	31%	2	40%
どちらともいえない	292	40%	96	34%	195	44%	1	20%
わからない	27	4%	11	4%	14	3%	2	40%
合計	734	100%	284	100%	445	100%	5	100%

H26	男	女
57.9%	64.4%	53.8%
9.8%	11.4%	8.7%
29.9%	22.0%	34.9%
2.4%	10.5%	2.6%

H26調査時では、全体の半数以上が「必要である」と回答していましたが、今回の調査では、「どちらともいえない」「必要でない」の割合が上がっています。「男らしさ」「女らしさ」というジェンダー（社会的性別）の考え方に変化が見られます。

問2 「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。

	全体		男		女		性別回答無	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
同感する	31	4%	22	8%	9	2%	0	0%
同感できない	484	66%	177	62%	304	68%	3	1%
どちらともいえない	209	28%	80	28%	128	29%	1	0%
わからない	13	2%	7	2%	5	1%	1	0%
合計	737	100%	286	100%	446	100%	5	1%

H26	男	女
10.9%	13.5%	9.2%
46.8%	42.9%	49.7%
41.3%	42.1%	40.5%
9.0%	1.5%	0.5%

「同感できない」が前回調査から数値を上げ、6割を超えています。問1同様「男らしさ、女らしさ」というジェンダーの考え方に変化が見られ、性別による固定的役割分担意識の解消を望む考えが高まっています。

問3 現在の生活や社会は、男女が平等になっていると思いますか。

	全体		男		女		性別回答無	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
平等になっている	85	12%	51	18%	34	8%	0	0%
平等になっていない	522	72%	184	65%	335	76%	3	60%
わからない	121	17%	49	17%	70	16%	2	40%
合計	728	100%	284	100%	439	100%	5	100%

H26	男	女
10.0%	23.3%	11.2%
59.4%	66.2%	74.5%
30.6%	10.5%	14.3%

「平等になっていない」と回答した割合が前回調査より上がり72%でした。

副問（問3で「2. 平等になっていない」と回答した方）あなたが男女の不平等を強く感じるのは次のどの分野ですか。あなたの考えに最も近いものを3つ以内で選び、番号に○をつけてください。

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
社会通念、慣習、しきたり	432	34%	160	36%	270	34%	2	29%	32.5%	32.8%	32.3%
家庭生活	229	18%	51	11%	176	22%	2	29%	18.5%	10.9%	23.1%
職場	258	21%	99	22%	157	20%	2	29%	30.1%	31.3%	29.4%
学校教育の場	28	2%	13	3%	15	2%	0	0%	10.0%	0.5%	1.3%
政治の場	160	13%	65	15%	94	12%	1	14%	8.5%	9.4%	7.9%
法律や制度	140	11%	55	12%	85	11%	0	0%	9.3%	14.6%	6.0%
その他	10	1%	5	1%	5	1%	0	0%	2.0%	0.5%	0.0%
合計	1257	100%	448	100%	802	100%	7	100%			

「その他」の内容：女性が厚遇されすぎている／給料の格差／必ずしも平等にしなければいけないには限度があるので、時と場合でいいと思う／そもそも男女の平等を考えること自体が平等ではない

1位「社会通念、慣習、しきたり」 2位「職場」 3位「家庭生活」となりました。
 いまだ固定的性別役割分担が社会に根強く残っていると考えられます。

問4 仕事をする上で、一般的に女性はどのような存在だと思いますか。

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
男性にとって対等なパートナー	348	48%	174	61%	174	40%	0	0%	47.2%	56.1%	41.8%
仕事の遂行能力で男性を上回る存在	25	3%	16	6%	9	2%	0	0%	4.7%	5.3%	4.3%
男性にとって気の利く補助者	61	8%	22	8%	39	9%	0	0%	17.9%	15.9%	19.2%
仕事への意欲、責任感、体力等が男性に比べ劣る存在	41	6%	12	4%	29	7%	0	0%	6.7%	7.6%	6.3%
生理、妊娠、出産など仕事に支障を持つ存在	118	16%	15	5%	102	23%	1	25%	11.7%	6.1%	14.9%
わからない	108	15%	36	13%	70	16%	2	50%	10.9%	8.3%	12.5%
その他	23	3%	8	3%	14	3%	1	25%	9.0%	0.8%	1.0%
合計	724	100%	283	100%	437	100%	4	100%			

「その他」の内容：職場の空気をよくしてくれる存在／男性と比べ親しみやすさがあり、なんでも話せる存在／男性にない繊細な感受性を持っている。それを活かす。／男女の区別はないが体力は劣る。その点は平等になりえない。／男性・女性の区別なく人間としてどうかと考えている。／比べるものではない

仕事をする上で男女は「対等なパートナー」という回答が1位となったものの、女性が自らを「生理、妊娠、出産など仕事に支障を持つ」と感じている人が多くいました。休暇制度の導入や制度を活用しやすい職場の環境づくり等、女性が仕事をする上で身体的特徴を支障と感じさせない社会づくりが必要と考えます。

問5 女性が生涯にわたり仕事を続けるために、どのような支援や改善が必要だと思いますか。
(3つ以内選択)

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
女性が働くことに対する社会全般の慣習の改善	295	15%	143	19%	152	12%	0	0%	8.4%	9.0%	8.1%
就職情報の提供・充実	42	2%	11	1%	31	3%	0	0%	7.0%	7.6%	6.6%
再就職のための研修の充実	49	2%	20	3%	28	2%	1	10%	6.2%	5.3%	6.8%
子育て後などの再就職・再雇用制度の充実	341	17%	143	19%	196	16%	2	20%	17.7%	21.8%	14.9%
保育・介護・家事の支援サービス	326	16%	109	14%	215	17%	2	20%	12.7%	8.7%	11.6%
労働条件の改善（昇進・昇格など待遇格差解消等）	163	8%	58	8%	104	8%	1	10%	8.4%	7.8%	8.3%
企業等における育児・介護休暇制度の充実	261	13%	97	13%	163	13%	1	10%	8.1%	16.2%	15.3%
多様な雇用形態	261	13%	87	12%	172	14%	2	20%	15.7%	11.2%	14.4%
家族の協力（在宅勤務、時間短縮労働等）	249	12%	78	10%	170	14%	1	10%	13.1%	12.3%	13.1%
その他	11	1%	6	1%	5	0%	0	0%	0.4%	0.0%	0.7%
合計	1998	100%	752	100%	1236	100%	10	100%			

「その他」の内容：1～9全部／労基法の周知、徹底／男女の体力、機能特性を十分考慮した仕事配分／男性が女性を養うための経済的基盤の施策／子育てしながら、仕事を両立して行うこともできる社会全般の改革／女性自身の意識改革／育児休暇等で欠損となった職場への公的支援／国会議員が一般の生活様式を知って理解を深めない限り改善しない

1位「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」 2位「保育・介護・家事の支援サービス」
3位「女性が働くことに対する社会全般の慣習の改善」となりました。
また、女性の1位は「保育・介護・家事の支援サービス」でした。

問6 男性が家事、育児、介護等へ積極的に参加していくために必要なことは何だと思いますか。（3つ以内選択）

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
男性対象の講習会（料理・育児・介護など）の開催	231	14%	96	16%	135	14%	0	0%	17.7%	22.6%	14.5%
家庭における女性からの働きかけ	124	8%	49	8%	75	8%	0	0%	12.4%	9.8%	14.0%
学校行事への男性の参加を促すしくみづくり	176	11%	64	10%	110	11%	2	20%	11.5%	9.1%	13.1%
学校における男女平等教育	278	17%	91	15%	186	19%	1	10%	12.3%	10.4%	13.6%
職場における、育児、介護休暇等をとりやすくする環境づくり	590	36%	225	36%	360	36%	5	50%	29.8%	30.3%	29.4%
男性の家事参加を促す「家庭参加の日」などの県民運動	172	11%	67	11%	103	10%	2	20%	13.7%	15.5%	12.4%
その他	57	4%	26	4%	31	3%	0	0%	2.7%	2.4%	2.9%
合計	1628	100%	618	100%	1000	100%	10	100%			

「その他」の内容：労基法の周知、徹底／男性に家事をしてほしいとはあまり思わない／社会的な意識改革／本人次第／労働条件の改善、賃上げ／人材不足の解消／育休産中の所得補助／法律で義務化／男性がもっと家事や介護にプラスイメージを持てるようにする必要がある／経験者による講演会の開催／家族における幼少期からの教育／思いやりの心、気配り／子供の頃からの手伝いの習慣

男女ともに1位は「職場における、育児、介護休暇等を取りやすくする環境づくり」となりました。
職場における休暇制度の見直しや休暇を取ることへの理解・協力体制が求められています。。

問7 子どもに関する次のような項目について、あなたはどのように思いますか。

a：男の子は青、女の子は赤など性別で持ち物の色分けをする

	全体		男		女		性別回答無	
賛成	36	5%	22	8%	14	3%	0	0%
どちらかといえば賛成	119	16%	44	16%	74	17%	1	20%
どちらかといえば反対	212	29%	73	26%	137	31%	2	40%
反対	260	36%	101	36%	158	36%	1	20%
わからない	97	13%	41	15%	55	13%	1	20%
合計	724	100%	281	100%	438	100%	5	100%

H26男	H26女
7.4%	6.5%
27.3%	28.0%
18.2%	27.4%
28.1%	19.4%
19.0%	18.8%

b：運動部の女子マネージャーは部室の掃除など家庭的なことを担う

	全体		男		女		性別回答無	
賛成	32	4%	17	6%	15	3%	0	0%
どちらかといえば賛成	92	13%	34	12%	58	13%	0	0%
どちらかといえば反対	192	27%	62	22%	129	30%	1	20%
反対	293	41%	122	44%	168	38%	3	60%
わからない	113	16%	45	16%	67	15%	1	20%
合計	722	100%	280	100%	437	100%	5	100%

H26男	H26女
4.2%	5.9%
23.5%	24.5%
13.4%	22.3%
31.1%	21.3%
27.7%	26.1%

c：女の子は激しい運動をする部活動はさける

	全体		男		女		性別回答無	
賛成	8	1%	6	2%	2	0%	0	0%
どちらかといえば賛成	52	7%	24	9%	28	6%	0	0%
どちらかといえば反対	191	27%	68	24%	123	28%	0	0%
反対	343	48%	137	49%	204	47%	2	40%
わからない	126	18%	44	16%	79	18%	3	60%
合計	720	100%	279	100%	436	100%	5	100%

d：女の子には門限を設ける

	全体		男		女		性別回答無	
賛成	81	11%	35	13%	46	10%	0	0%
どちらかといえば賛成	217	30%	82	29%	134	31%	1	20%
どちらかといえば反対	140	19%	44	16%	95	22%	1	20%
反対	168	23%	81	29%	85	19%	2	40%
わからない	118	16%	38	14%	79	18%	1	20%
合計	724	100%	280	100%	439	100%	5	100%

性別による色分け、役割分担、運動種目は「反対」の回答が多く、ジェンダー（社会的に形成された性別）によって区別する考え方が見直されてきています。門限を設けることについては子どもの身の安全を守る観点から「賛成」が多くなったと考えられます。

問8 家族の介護は、主に女性（妻、娘、嫁）が担っていることが多いのが現状です。あなたはこれをどう思いますか。

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
家族の介護はしたほうが良い	15	2%	7	3%	8	2%	0	0%	2.4%	3.8%	1.5%
女性にのみ負担させることは好ましくないが、今の状態では仕方ない	184	25%	81	29%	102	23%	1	20%	38.1%	39.8%	37.1%
男性も女性と等しく介護するべきである	475	66%	172	62%	300	68%	3	60%	50.8%	48.1%	52.3%
男性が介護したほうが良い	12	2%	5	2%	6	1%	1	20%	9.0%	1.5%	0.5%
その他	39	5%	14	5%	25	6%	0	0%	7.9%	6.8%	8.6%
合計	725	100%	279	100%	441	100%	5	100%			

「その他」の内容：家庭での仕事の量を考慮した負担を話し合うべき／女性としての習慣、気質特性から女性の方が適している内容もある／その都度できるかぎり協力してやるべき／同性の方がよいのではと感じる／介護される人の気持ちが一番では？／家族（介護される人）の望む人が主に行い、出来ることはその他の人もする／サービスを利用する／介護が心配な人ならば社会福祉を受けるべき／状況に応じてできるほうがやる／家庭の事情にもよるが施設の充実が必要

前回調査同様半数以上が「男女等しく介護するべき」という回答でした。また、自由回答では介護される側の意見の尊重や制度・福祉サービスの活用によって介護そのものの負担を軽減する意見もありました。

問9 あなたは現在、学業・仕事以外に何か活動していますか。（あてはまるものすべて選択）

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
スポーツ、文化芸術等のサークル活動	114	13%	58	17%	56	11%	0	0%	16.8%	19.1%	15.4%
講座・セミナー等の受講や学習活動	53	6%	23	7%	30	6%	0	0%	-	-	-
自治会、婦人会、子供会等の地域活動	124	15%	52	15%	72	15%	0	0%	19.5%	22.4%	17.8%
ボランティア活動や社会貢献活動	51	6%	34	10%	16	3%	1	25%	-	-	-
NPO等の非営利活動	12	1%	5	1%	7	1%	0	0%	-	-	-
ブログやインスタ等での情報発信	32	4%	16	5%	16	3%	0	0%	-	-	-
その他	16	2%	9	3%	7	1%	0	0%	2.3%	2.0%	2.5%
どれにも参加していない	443	52%	151	43%	289	59%	3	75%	47.2%	47.4%	46.9%
合計	845	100%	348	100%	493	100%	4	100%			

「その他」の内容：デイケア参加／郷土芸能／保険推進委員会／学会での活動、セミナー講師／お寺

全体の半数が「どれにも参加していない」という回答でした。また、参加している人のうち男性は「スポーツ、文化芸術等のサークル活動」、女性は「自治会、婦人会、子供会等の地域活動」が1位でした。

問9_副問1（問9でどれにも参加していない以外を選択した人）あなたがその活動に参加している理由は何ですか。（2つ以内選択）

	全体		男		女		性別回答無	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
役目が順番制だから	74	17%	23	11%	51	21%		
自分の専門や能力を生かしたいから	54	12%	30	14%	24	10%		
人や世の中、地域に役立つから	71	16%	37	18%	34	14%		
自分を成長させたいから	80	18%	34	16%	46	19%		
教養を身につけたいから	20	4%	12	6%	8	3%		
実生活（職業を含む）に役立つから	27	6%	11	5%	16	7%		
行政や他人任せではいけないから	12	3%	6	3%	6	3%		
友達ができるから	41	9%	23	11%	18	8%		
時間に余裕があるから	38	8%	19	9%	19	8%		
その他	31	7%	13	6%	18	8%		
合計	448	100%	208	100%	240	100%		

	H26	男	女
	27.0%	27.6%	26.6%
	3.5%	3.8%	3.2%
	15.4%	18.1%	13.6%
	13.9%	11.4%	15.6%
	2.7%	1.0%	3.9%
	3.9%	1.9%	5.2%
	4.2%	7.6%	1.9%
	12.4%	11.4%	13.0%
	5.8%	5.7%	5.8%
	11.2%	11.4%	11.0%

「その他」の内容：ボケ防止／楽しいから／依頼されたから／ストレス発散／人的交流、情報交換のため

全体の1位は「自分を成長させたいから」となりましたが、問9の結果と合わせると、「男性は自分を成長させるためにスポーツ・芸術等のサークル活動に参加している」、「女性は役目が順番制のため子供会等の地域活動に参加している」という人が多いと考えられます。

問9_副2（問9でどれにも参加していないを選択した人）その理由は何ですか。

	全体		男		女		性別回答無	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
興味・関心がない	190	43%	73	49%	114	40%	3	75%
興味・関心はあるが参加できない	208	47%	61	41%	146	51%	1	25%
その他	41	9%	16	11%	25	9%	0	0%
合計	439	100%	150	100%	285	100%	4	100%

問9_副3（副問2で「2. 興味・関心はあるが参加できない」と答えた方）その理由は何ですか。

	全体		男		女		性別回答無	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
活動するための施設が遠い	10	5%	2	3%	8	5%	0	0%
参加したいと思える講座やサークルがない	27	12%	9	14%	18	12%	0	0%
仕事が忙しい	72	33%	28	42%	41	27%	3	100%
家事・育児・介護で忙しい	38	17%	4	6%	34	22%	0	0%
自分が高齢・病弱	38	17%	17	26%	21	14%	0	0%
費用がかかる	14	6%	1	2%	13	9%	0	0%
その他	22	10%	5	8%	17	11%	0	0%
合計	221	100%	66	100%	152	100%	3	100%

	H26	男	女
	3.0%	3.8%	2.5%
	5.5%	5.1%	5.9%
	17.1%	19.0%	16.0%
	5.5%	0.0%	9.2%
	12.1%	12.7%	10.9%
	6.0%	5.1%	6.7%
	10.6%	1.4%	10.1%

「その他」の内容：仕事、家事で疲れる／コロナ禍／一人や友人といるほうが楽しい／知る機会があまりない

副問2、3の結果から、興味関心があっても、仕事や家事・育児・介護が忙しいために参加できない人が多いことがわかりました。また、その他では、どのような活動が行われているか知る機会がないという意見もありました。

問10 女性が地域（社会）活動にもっと参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（2つ以内選択）

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
自由になる時間を増やすこと	268	22%	103	21%	163	22%	2	40%	19.0%	12.6%	19.4%
社会活動にもっと関心と意欲をもつこと	202	16%	68	14%	134	18%	0	0%	20.1%	17.4%	20.1%
家族の理解と協力	328	27%	140	29%	188	25%	0	0%	29.5%	32.4%	27.4%
隣近所の理解	38	3%	20	4%	18	2%	0	0%	2.9%	2.9%	2.9%
託児所やヘルパー制度の設備	128	10%	49	10%	78	10%	1	20%	10.7%	13.5%	8.9%
社会活動のための施設や設備の整備	117	9%	45	9%	72	10%	0	0%	8.6%	8.2%	8.9%
行政の指導や広報等の援助	82	7%	36	7%	46	6%	0	0%	6.1%	6.3%	6.1%
わからない	54	4%	11	2%	41	6%	2	40%	5.0%	5.3%	4.8%
その他	17	1%	12	2%	5	1%	0	0%	1.5%	1.4%	1.6%
合計	1234	100%	484	100%	745	100%	5	100%			

「その他」の内容：参加は個人の自由／労働時間の短縮／社会において参加しやすい雰囲気／十分活動していると思う

1位「家族の理解と協力」 2位「自由になる時間を増やすこと」
 3位「社会活動にもっと関心と意欲をもつこと」となりました。
 家事や育児の負担が大きく、自由に使える時間が少ない女性が多いと考えられます。家庭生活において役割分担を見直し、家族で協力できる意識づくりが必要です。

問11 女性の人権に関する次の項目について、あなたはどのように思いますか。

a：女性の幸福は結婚にあるのだから女性は結婚する方がよい

	全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	割合	割合
賛成	26	4%	17	6%	9	2%	0	0%	13.4%	6.8%
どちらかといえば賛成	132	18%	65	23%	66	15%	1	20%	27.6%	29.7%
どちらかといえば反対	127	17%	33	12%	94	21%	0	0%	13.4%	16.7%
反対	195	27%	63	22%	131	30%	1	20%	9.4%	12.5%
わからない	247	34%	105	37%	139	32%	3	60%	36.2%	34.9%
合計	727	100%	283	100%	439	100%	5	100%		

b：女性は仕事をもつのはよいが家事・育児はきちんとするのが当然

	全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	割合	割合
賛成	33	5%	19	7%	14	3%	0	0%	15.1%	8.3%
どちらかといえば賛成	174	24%	82	29%	91	21%	1	20%	43.7%	38.5%
どちらかといえば反対	209	29%	55	20%	152	35%	2	40%	11.1%	28.6%
反対	209	29%	69	25%	139	32%	1	20%	7.9%	13.0%
わからない	97	13%	54	19%	42	10%	1	20%	22.2%	11.5%
合計	722	100%	279	100%	438	100%	5	100%		

c: 結婚したら子どもをもうけるのが当然

	全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	割合	割合
賛成	48	7%	31	11%	17	4%	0	0%	29.4%	12.4%
どちらかといえば賛成	143	20%	67	24%	75	17%	1	20%	31.7%	36.8%
どちらかといえば反対	106	15%	36	13%	70	16%	0	0%	6.3%	10.4%
反対	227	32%	69	25%	157	36%	1	20%	7.1%	9.3%
わからない	196	27%	75	27%	118	27%	3	60%	25.4%	31.1%
合計	720	100%	278	100%	437	100%	5	100%		

d: 女性は結婚したら夫の姓に変える

	全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	割合	割合
賛成	75	10%	37	13%	37	8%	1	20%	27.0%	16.4%
どちらかといえば賛成	150	21%	63	23%	87	20%	0	0%	23.8%	26.8%
どちらかといえば反対	106	15%	26	9%	80	18%	0	0%	9.5%	10.8%
反対	136	19%	55	20%	79	18%	2	40%	7.1%	6.2%
わからない	254	35%	97	35%	155	35%	2	40%	32.5%	39.7%
合計	721	100%	278	100%	438	100%	5	100%		

a~dの回答結果より、女性だけが家事・育児をする、いわゆる「男は仕事、女は家庭」の考え方に変化が見られます。また、子どもをもうけることについて前回調査では「どちらかといえば賛成」が多数でしたが、今回は「反対」が多数となりました。このことについては、意識の問題だけでなく、育児の負担にも原因していると考えられます。

問12 あなたは、DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する次のことについて知っていますか。(あてはまるものすべて選択)

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	割合	割合	割合
配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を「DV」と呼ぶこと	660	25%	244	25%	412	26%	4	25%	25.5%	25.2%	25.6%
DVには殴る、蹴るなど身体的暴力だけではなく、精神的、性的暴力も含まれること	667	26%	252	25%	410	26%	5	31%	24.5%	24.1%	24.7%
DV被害者を支援するための法律「配偶者からの暴力の防止及び被害者の類に関する法律」が制定されていること	402	16%	159	16%	241	15%	2	13%	18.3%	18.3%	18.4%
公的機関において、相談や被害者の一時保護を行っていること	486	19%	186	19%	298	19%	2	13%	18.6%	18.8%	18.6%
DV被害者を発見した人は、公的機関などの相談窓口または警察に通報するように努めなければならないこと	347	13%	144	14%	202	13%	1	6%	11.5%	12.5%	10.9%
全て知らない	20	1%	8	1%	11	1%	1	6%	0.7%	0.7%	0.7%
その他	9	0%	2	0%	6	0%	1	6%	0.8%	0.4%	1.0%
合計	2591	100%	995	100%	1580	100%	16	100%			

「その他」の内容：1993年に国連総体で女性に対する暴力撤廃宣言が採択されたこと／男性→女性に対するだけでなく、反対の女性→男性もDVである

前回調査と比較すると、対象者だけでなく、内容が多様であることを知っている人の割合が増えています。

問13 DVについて、あなたは身近で見聞きしたことがありますか。

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
DVを受けた人から相談を受けた	19	3%	2	1%	16	4%	1	20%	4.6%	3.7%	5.2%
身近に暴力を受けた人がいる	73	10%	20	7%	53	12%	0	0%	12.9%	9.6%	15.0%
身近にはいないが、DVの噂を耳にした	63	9%	26	9%	37	9%	0	0%	10.3%	11.1%	9.9%
テレビや新聞などで知った	324	45%	121	44%	201	46%	2	40%	48.1%	46.7%	48.8%
DVについて見聞きしたことはない	151	21%	72	26%	78	18%	1	20%	10.6%	14.1%	8.5%
わからない	61	9%	31	11%	30	7%	0	0%	10.9%	13.3%	9.4%
その他	23	3%	3	1%	19	4%	1	20%	2.6%	14.1%	8.5%
合計	714	100%	275	100%	434	100%	5	100%			

「その他」の内容：自分自身がDVを受けた／学校で習った

半数近くは「テレビや新聞などで知った」という回答ですが、「身近に暴力を受けた人がいる」が10%、その他回答では過去に自身が被害にあったという記述もあり、身近な問題として早急な対策が必要と考えます。

問14 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。

	全体		男		女		性別回答無		H26
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
知っている	427	60%	154	56%	271	63%	2	40%	50.8%
知らない	282	40%	120	44%	159	37%	3	60%	49.2%
合計	709	100%	274	100%	430	100%	5	100%	

「知らない」の回答が40%と半数に迫る結果となりました。認知度は高いとは言えない状況です。

副問1（問14で「1. 知っている」と答えた方）相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。（あてはまるものすべて選択）

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
岩手福祉総合相談センター	138	12%	54	12%	84	12%	0	0%	-	-	-
岩手男女共同参画センター	45	4%	27	6%	18	3%	0	0%	5.9%	5.8%	6.5%
もりおか女性センター	97	9%	25	6%	72	11%	0	0%	8.2%	2.9%	12.1%
市役所（滝沢市役所児童福祉課）	190	17%	83	19%	106	16%	1	33%	16.8%	21.8%	13.4%
警察	357	32%	136	31%	219	32%	2	67%	32.9%	35.3%	31.0%
弁護士会、法務局、法テラス	120	11%	49	11%	71	11%	0	0%	10.6%	13.5%	8.6%
人権擁護委員	66	6%	31	7%	35	5%	0	0%			
民間の団体や機関（民間シェルター）	91	8%	24	6%	67	10%	0	0%	10.1%	8.2%	11.6%
その他	8	1%	5	1%	3	0%	0	0%	0.2%	0.6%	0.0%
合計	1112	100%	434	100%	675	100%	3	100%			

「その他」の内容：民生委員／ネットで検索／あるというのは知っているが具体的には知らない

相談窓口について「警察」以外の回答率が低いことから、各窓口についての周知が必要です。

問15 あなたが、女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口で配慮してほしいと思うことは何ですか。
(あてはまるものすべて選択)

	全体		男		女		性別回答無	
メールで相談ができる	265	8%	122	9%	141	7%	2	10%
LINE等のSNSで相談ができる	277	8%	115	9%	160	8%	2	10%
電話で相談ができる	364	11%	156	12%	206	10%	2	10%
通話料が無料	316	9%	104	8%	210	10%	2	10%
24時間相談ができる	425	12%	152	12%	270	13%	3	14%
関連するほかの相談窓口との連携が行われる	270	8%	106	8%	162	8%	2	10%
同性の相談員がいる	426	12%	163	12%	260	12%	3	14%
匿名で相談ができる	450	13%	157	12%	292	14%	1	5%
法的知識のある弁護士等がいる	372	11%	137	10%	234	11%	1	5%
臨床心理士等の心理専門員がいる	224	7%	78	6%	145	7%	1	5%
その他	17	0%	6	0%	10	0%	1	5%
わからない	35	1%	14	1%	20	1%	1	5%
合計	3441	100%	1310	100%	2110	100%	21	100%

「その他」の内容：相談している事が相手に知られない／お互いの尊重／逃げたときに保護してくれるシェルターに誘導する人がいてほしい／友人が相談した際にスタッフから「あなたも悪いのでは？」と言われた。まずは傷ついている人の気持ちを考えた発言をしてほしい。／対応の速さ／他の人にわからないようなお店に買い物に行くような感じで相談窓口みたいなのがあるとよれるところがあるといい／DVされている人は相談ができない／相談した履歴が女性の端末に残らないしくみ（スマホを管理されていることが多いため）／配偶者に不本意に連絡しない／情報漏洩防止の徹底

全体では1位「匿名で相談ができる」2位「同性の相談員がいる」3位「24時間相談ができる」でした。自由回答においては相談者のプライバシーを守ることや相談したことがバレないことを重視する意見が複数ありました。

問16 あなたは、DVを防止するために何が重要だと思いますか。(3つ以内選択)

	全体		男		女		性別回答無		H26	男	女
法律、制度の見直し（罰則の強化など）	269	16%	104	15%	164	16%	1	20%	13.3%	14.3%	5.3%
犯罪の取り締まり強化	172	10%	76	11%	95	9%	1	20%	10.5%	11.1%	10.3%
被害者が届け出をしやすい環境の整備（操作や裁判での同性担当者の設置等）	423	25%	164	24%	258	25%	1	20%	13.4%	11.3%	14.9%
メディア（放送、出版、新聞など）を活用した、広報・啓発活動	50	3%	23	3%	27	3%	0	0%	9.7%	10.9%	8.9%
被害者のための相談窓口や保護施設の整備	357	21%	125	19%	232	22%	0	0%	14.9%	15.2%	14.6%
家庭、学校、職場における、男女平等や性についての教育の充実	139	8%	65	10%	74	7%	0	0%	7.3%	6.6%	7.7%
加害者に対するカウンセリングや更生プログラムの実施	151	9%	48	7%	103	10%	0	0%	8.8%	7.4%	9.7%
メディア（放送、出版、新聞など）が自主的に倫理規定を強化する	22	1%	9	1%	13	1%	0	0%	4.8%	5.3%	4.5%
DVを助長するおそれのある情報（雑誌、ウェブサイトなど）の取組み	90	5%	41	6%	49	5%	0	0%	8.1%	8.4%	7.9%
その他	13	1%	6	1%	6	1%	1	20%	0.7%	0.2%	1.1%

特に対策の必要はない	2	0%	1	0%	1	0%	0	0%
わからない	34	2%	11	2%	22	2%	1	20%
合計	1722	100%	673	100%	1044	100%	5	100%

0.0%	0.0%	0.0%
1.0%	1.0%	1.0%

「その他」の内容：暴力がなくなるとは思えない／通報の努力義務があること策をもっと周知する／DVを強く罰してほしい。悪いと思っていない男が多い。男性への教育が必要。家族だから訴えられないと思って暴力を振るってくる。／人間の暴力性への直視、アサーティブトレーニングの強化／加害者に問題があるのだから厳罪に処すべき／被害者の性別を問わず警察が動くようにすべき／空手教室の無料化／DVを見せられて育った、もしくは虐待されている子供への（心理的支援（連鎖を防ぐ）早期発見）／周囲の人が手助けしやすい環境をつくる

最も多い回答が「被害者が届け出を出しやすい環境の整備」でした。問15の結果を踏まえ、これまで以上に被害者を最優先に考えた支援体制の整備と活用の周知が必要と考えます。

問17 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものすべて選択。

	全体		男		女		性別回答無	
ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	6	0%	2	0%	1	0%	3	38%
LGBT（性的マイノリティを表す総称のひとつ）	592	36%	221	35%	369	36%	2	25%
女性活躍推進法	504	30%	201	32%	301	29%	2	25%
生理的貧困	148	9%	71	11%	77	8%	0	0%
見たり聞いたりしたものは ない	364	22%	114	18%	249	24%	1	13%
わからない	44	3%	19	3%	25	2%	0	0%
合計	1658	100%	628	100%	1022	100%	8	100%

「LGBT」の回答が最も多く、性的指向や性自認について少しずつ理解されてきています。一方で「ジェンダー」を知らない人が多く、周知の必要があると考えます。

問18 男女共同参画社会の実現のために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

（3つ以内選択）

	全体		男		女		性別回答無	
男女共同参画についての理解	305	17%	139	20%	166	15%	0	0%
家庭内での役割分担	240	13%	101	14%	138	13%	1	17%
仕事と生活のバランス・調和	448	25%	167	24%	279	26%	2	33%
地域コミュニティに参加しやすい仕組みづくり	117	6%	58	8%	59	5%	0	0%
子育て環境づくり	332	18%	120	17%	210	19%	2	33%
DV被害防止対策	90	5%	26	4%	64	6%	0	0%
多様性を認め合える環境づくり	259	14%	87	12%	172	16%	0	0%
その他	10	1%	4	1%	5	0%	1	17%
合計	1801	100%	702	100%	1093	100%	6	100%

「その他」の内容：全部／人権教育／先進事例の周知と、市の基本方針の確立と共有化／不平等でよい／この国はそもそも労働時間が多すぎる。仕事の効率化を考えて労働時間を減らす。

1位「仕事と生活のバランス・調和」 2位「子育て環境づくり」 3位「男女共同参画についての理解」でした。また、その他では、労働環境の改善という回答が複数ありました。

問20 (1) 次のような項目のうち、あなたの職場で実際にあるものはどれですか。
 (2) また、それらの待遇について、現状にかかわらず、どのように思われますか。

a 女性だという理由でお茶くみ、掃除などを行う

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	ある	136	30%	52	28%	83	31%	1	25%	19.3%	31.1%
	ない	279	61%	113	61%	164	62%	2	50%	72.7%	59.7%
	わからない	39	9%	21	11%	17	6%	1	25%	8.0%	9.2%
	合計	454	100%	186	100%	264	100%	4	100%		
(2)	当然である	49	11%	25	14%	23	9%	1	33%	25.6%	11.8%
	仕方ない	37	9%	13	7%	24	10%	0	0%	14.6%	8.2%
	改善すべき	247	58%	91	52%	155	62%	1	33%	39.0%	48.2%
	どちらともいえない	95	22%	47	27%	47	19%	1	33%	20.7%	31.8%
	合計	428	100%	176	100%	249	100%	3	100%		

半数以上が「ない」と回答したものの、3割は「ある」という現状です。また、性別を理由に役割を決めることについて「改善すべき」という回答の割合は前回調査より高くなりました。

b 出産（妊娠）したら退社する女性が多い

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	ある	89	20%	35	19%	54	21%	0	0%	26.1%	25.8%
	ない	267	59%	109	59%	155	60%	3	75%	51.1%	53.3%
	わからない	93	21%	41	22%	51	20%	1	25%	22.7%	20.8%
	合計	449	100%	185	100%	260	100%	4	100%		
(2)	当然である	42	10%	24	14%	17	7%	1	33%	14.6%	10.6%
	仕方ない	53	13%	25	14%	28	12%	0	0%	24.4%	13.3%
	改善すべき	219	52%	71	41%	147	61%	1	33%	28.0%	46.0%
	どちらともいえない	104	25%	53	31%	50	21%	1	33%	32.9%	30.1%
	合計	418	100%	173	100%	242	100%	3	100%		

「ない」の回答が多く、半数を超えています。また、前回調査では男性が「どちらともいえない」が最多でしたが、今回は「改善すべき」が最多となりました。

c 重要な業務には女性が少ない

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	ある	127	28%	59	32%	68	26%	0	0%	37.1%	34.5%
	ない	244	54%	101	54%	140	54%	3	75%	43.8%	44.5%
	わからない	80	18%	26	14%	53	20%	1	25%	17.4%	21.0%
	合計	451	100%	186	100%	261	100%	4	100%		
(2)	当然である	43	10%	20	11%	22	9%	1	33%	21.7%	8.0%
	仕方ない	36	8%	17	10%	19	8%	0	0%	8.4%	11.6%
	改善すべき	239	56%	100	56%	138	56%	1	33%	51.8%	52.7%
	どちらともいえない	110	26%	41	23%	68	28%	1	33%	18.1%	27.7%
	合計	428	100%	178	100%	247	100%	3	100%		

「ない」の回答が前回調査より高くなり半数以上となりました。一方で「ある」の回答が3割近くになっており、いまだ、性別を理由に重要な業務を担えない女性がいる状況です。

d 産休や育児休暇をとる女性への評価が低い

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	ある	88	20%	25	14%	63	24%	0	0%	12.5%	26.7%
	ない	232	52%	98	53%	131	50%	3	75%	47.7%	47.5%
	わからない	130	29%	61	33%	68	26%	1	25%	39.8%	25.8%
	合計	450	100%	184	100%	262	100%	4	100%		
(2)	当然である	40	9%	20	11%	19	8%	1	33%	14.8%	11.0%
	仕方ない	21	5%	8	5%	13	5%	0	0%	9.9%	6.4%
	改善すべき	269	63%	103	59%	165	67%	1	33%	43.2%	67.0%
	どちらともいえない	96	23%	44	25%	51	21%	1	33%	32.1%	19.3%
	合計	426	100%	175	100%	248	100%	3	100%		

半数以上が「ない」と回答したものの、2割の方は評価の低さを感じています。また、「改善すべき」の回答が男女ともに半数を超えています。

e 女性は男性に比べて昇格・給料が劣る

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	ある	136	30%	44	24%	90	35%	2	50%	23.9%	35.8%
	ない	176	39%	90	48%	85	33%	1	25%	54.5%	37.5%
	わからない	138	31%	52	28%	85	33%	1	25%	21.6%	26.7%
	合計	450	100%	186	100%	260	100%	4	100%		
(2)	当然である	32	7%	18	10%	14	6%	0	0%	17.1%	6.2%
	仕方ない	27	6%	13	7%	14	6%	0	0%	11.0%	6.2%
	改善すべき	300	70%	115	65%	182	73%	3	100%	45.1%	66.4%
	どちらともいえない	71	17%	31	18%	40	16%	0	0%	26.8%	21.2%
	合計	430	100%	177	100%	250	100%	3	100%		

前回調査では女性の回答は「ない」が最多でしたが、今回調査では「ある」の回答がわずかに上回りました。また、「改善すべき」が70%と高く、企業側への周知が必要と考えます。

f 男性は育児休暇を利用しにくい

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	ある	230	51%	106	57%	122	47%	2	50%	61.4%	49.2%
	ない	86	19%	41	22%	45	17%	0	0%	13.6%	7.5%
	わからない	136	30%	40	21%	94	36%	2	50%	25.0%	43.3%
	合計	452	100%	187	100%	261	100%	4	100%		
(2)	当然である	22	5%	12	7%	10	4%	0	0%	8.6%	2.6%
	仕方ない	44	10%	25	14%	19	8%	0	0%	16.0%	9.6%
	改善すべき	298	69%	113	64%	184	74%	1	33%	55.6%	66.4%
	どちらともいえない	65	15%	27	15%	36	14%	2	67%	19.8%	21.2%
	合計	429	100%	177	100%	249	100%	3	100%		

男性の半数以上が育休を利用しづらいと回答しています。また、全体の約7割が「改善すべき」と回答しています。

g 女性は家事をこなしてから仕事する

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	ある	252	56%	68	37%	181	69%	3	75%	41.4%	68.6%
	ない	80	18%	53	29%	27	10%	0	0%	21.8%	14.9%
	わからない	116	26%	62	34%	53	20%	1	25%	36.8%	16.5%
	合計	448	100%	183	100%	261	100%	4	100%		
(2)	当然である	21	5%	12	7%	9	4%	0	0%	11.1%	4.4%
	仕方ない	70	16%	22	13%	48	19%	0	0%	25.9%	28.1%
	改善すべき	250	58%	92	52%	156	62%	2	67%	30.9%	43.9%
	どちらともいえない	90	21%	50	28%	39	15%	1	33%	32.1%	23.7%
	合計	431	100%	176	100%	252	100%	3	100%		

女性の7割近くが「ある」と回答しています。また、この現状について半数以上が「改善すべき」と回答しており、固定的性別役割分担をなくす取り組みが必要です。

問21 今のあなたの主たる仕事は、どの程度やりがいのある仕事だと思いますか。

	全体		男		女		性別回答無		H26
やりがいがある	119	26%	52	28%	65	24%	2	50%	36.7%
まあやりがいがある	193	42%	75	40%	118	44%	0	0%	37.2%
どちらともいえない	102	22%	46	24%	55	21%	1	25%	42.0%
あまりやりがいがない	24	5%	6	3%	18	7%	0	0%	6.9%
やりがいがない	21	5%	9	5%	11	4%	1	25%	
合計	459	100%	188	100%	267	100%	4	100%	

前回調査では「どちらともいえない」が最多でしたが、今回調査では「まあやりがいがある」「やりがいがある」の割合が高くなりました。

問22 家族で農林漁業を営んでいる方におうかがいします。あなたは、農林漁業に従事したことに対する労働報酬（給料等）を、受け取って（払って）いますか。

	全体		男		女		性別回答無	
定期的に取り取って（払って）いる	2	9%	1	7%	1	11%	回答無	H26
ときどき取り取って（払って）いる	3	13%	2	14%	1	11%		66.7%
ほとんど取り取って（払って）いない	4	17%	3	21%	1	11%		-
まったく取り取って（払って）いない	14	61%	8	57%	6	67%		-
合計	23	100%	14	100%	9	100%		33.3%

前回調査と結果が逆転し「まったく取り取って（払って）いない」が61%となりました。

問23 結婚されており、配偶者と同居している方におうかがいします。あなたの家庭では、家庭内の役割分担を主にだれが担っていますか。
（（1）あてはまるもの（2）理想と考えるもの を回答）

a 食料品等の買い物

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	187	38%	14	8%	170	55%	3	100%	主に妻 59.3%	主に夫 2.5%
	配偶者	68	14%	63	35%	5	2%	0	0%		
	夫婦共同	225	46%	99	55%	126	41%	0	0%	35.7%	
	その他	13	3%	4	2%	9	3%	0	0%	0.5%	
	合計	493	100%	180	100%	310	100%	3	100%		
(2)	自分	60	13%	5	3%	55	19%	0	0%	主に妻 29.2%	主に夫 0.5%
	配偶者	23	5%	18	11%	5	2%	0	0%		
	夫婦共同	371	80%	139	83%	230	78%	2	100%	66.3%	
	その他	11	2%	5	3%	6	2%	0	0%	2.2%	
	合計	465	100%	167	100%	296	100%	2	100%		

前回調査では女性（妻）が最多でした。今回調査でも女性が行っているという回答が多いものの、全体で見ると夫婦共同で行っている人が増えてきています。

b：料理

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	240	49%	7	4%	230	74%	3	100%	主に妻 83.1%	主に夫 0.5%
	配偶者	123	25%	115	65%	8	3%	0	0%		
	夫婦共同	113	23%	49	28%	64	21%	0	0%	11.3%	
	その他	14	3%	6	3%	8	3%	0	0%	0.5%	
	合計	490	100%	177	100%	310	100%	3	100%		
(2)	自分	62	13%	4	2%	58	19%	0	0%	主に妻 43.7%	主に夫 0.0%
	配偶者	51	11%	42	26%	9	3%	0	0%		
	夫婦共同	332	72%	111	68%	219	73%	2	100%	52.5%	
	その他	19	4%	7	4%	12	4%	0	0%	2.2%	
	合計	464	100%	164	100%	298	100%	2	100%		

男女別の結果でみると、料理は女性（妻）が行っているという割合が高く、夫婦共同が理想と回答した人が7割を超えています。

c：食後の片づけ

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	219	45%	20	11%	197	64%	2	67%	主に妻 61.6%	主に夫 5.1%
	配偶者	79	16%	65	37%	14	5%	0	0%		
	夫婦共同	177	36%	86	48%	91	30%	0	0%	26.8%	
	その他	14	3%	7	4%	6	2%	1	33%	2.0%	
	合計	489	100%	178	100%	308	100%	3	100%		
(2)	自分	43	9%	16	10%	27	9%	0	0%	主に妻 15.8%	主に夫 4.4%
	配偶者	31	7%	11	7%	20	7%	0	0%		
	夫婦共同	373	80%	131	80%	240	80%	2	100%	76.0%	
	その他	17	4%	5	3%	12	4%	0	0%	2.7%	
	合計	464	100%	163	100%	299	100%	2	100%		

食後の片づけについては、女性（妻）が担う割合が高いものの、前年と比較すると夫婦共同の割合が高くなっています。また、全体の80%が夫婦共同が理想と回答しています。

d：掃除・洗濯等

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	212	44%	13	7%	197	64%	2	67%	主に妻 71.7%	主に夫 1.5%
	配偶者	88	18%	80	45%	8	3%	0	0%		
	夫婦共同	177	36%	80	45%	96	31%	1	33%	21.7%	
	その他	10	2%	5	3%	5	2%	0	0%	1.0%	
	合計	487	100%	178	100%	306	100%	3	100%		
(2)	自分	51	11%	12	7%	39	13%	0	0%	主に妻 23.1%	主に夫 0.5%
	配偶者	20	4%	11	7%	9	3%	0	0%		
	夫婦共同	380	82%	138	83%	240	81%	2	100%	70.3%	
	その他	14	3%	5	3%	9	3%	0	0%	4.4%	
	合計	465	100%	166	100%	297	100%	2	100%		

男女別でみると女性（妻）が担っている割合が高く、全体の82%が夫婦共同が理想と回答しています。

e：自治会行事等への参加

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	201	41%	62	35%	136	44%	3	100%	主に妻 36.0%	主に夫 21.5%
	配偶者	99	20%	40	23%	59	19%	0	0%		
	夫婦共同	128	26%	50	28%	78	25%	0	0%	29.0%	
	その他	61	12%	25	14%	36	12%	0	0%	9.1%	
	合計	489	100%	177	100%	309	100%	3	100%		
(2)	自分	29	6%	19	12%	10	3%	0	0%	主に妻 4.6%	主に夫 12.0%
	配偶者	56	12%	6	4%	50	17%	0	0%		
	夫婦共同	327	71%	121	74%	204	69%	2	100%	75.4%	
	その他	49	11%	18	11%	31	11%	0	0%	5.1%	
	合計	461	100%	164	100%	295	100%	2	100%		

男女ともに回答者本人が参加している割合が高いものの、家庭内で夫婦どちらかが担っている状況です。行事の内容や状況に応じて分担する「夫婦共同」が求められていると考えます。

f：高齢者の世話・介護

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	75	18%	8	5%	66	26%	1	33%	主に妻 30.8%	主に夫 3.0%
	配偶者	38	9%	29	19%	9	4%	0	0%		
	夫婦共同	108	26%	49	32%	58	23%	1	33%	24.8%	
	その他	188	46%	65	43%	122	48%	1	33%	39.1%	
	合計	409	100%	151	100%	255	100%	3	100%		
(2)	自分	12	3%	3	2%	9	3%	0	0%	主に妻 3.2%	主に夫 3.2%
	配偶者	12	3%	5	3%	7	3%	0	0%		
	夫婦共同	297	71%	106	70%	189	71%	2	100%	75.3%	
	その他	98	23%	37	25%	61	23%	0	0%	17.5%	
	合計	419	100%	151	100%	266	100%	2	100%		

前回調査同様「その他」の回答が多く、子や福祉サービスの利用が多いと考えられます。
 その他を除くと家庭内における介護は女性（妻）の割合が高い状況です。

問24 結婚や出産を経験されている女性におうかがいします。
あなたと仕事の関係は次のどれですか。あなたと仕事の関係は次のどれですか。

	女	
結婚または出産後、継続して働いている	113	35%
結婚・育児（出産）のため一時やめ、また働いている	119	37%
結婚・育児（出産）のため仕事をやめた	61	19%
これまで仕事をもったことがない	6	2%
その他	23	7%
合計	322	100%

（問24で1，2，3のいずれかを選んだ方）

副問 あなたは今後のご自身の仕事についてどのように考えていますか。

	女性	
継続して働きたい	172	58%
現在働いていないが今後働きたい	29	10%
働きたくない	54	18%
わからない	40	14%
合計	295	100%

18歳未満の子どもがいる方におうかがいします。

問25 あなたの家庭では、次のような役割を主に誰が担っていますか。

（（1）あてはまるもの（2）理想と考えるもの を回答）

a：乳幼児の世話・育児

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	79	41%	0	0%	78	63%	1	33%	主に妻 51.0%	主に夫 0.0%
	配偶者	19	10%	19	29%	0	0%	0	0%		
	夫婦共同	87	46%	40	62%	45	37%	2	67%	29.3%	
	その他	6	3%	6	9%	0	0%	0	0%	18.4%	
	合計	191	100%	65	100%	123	100%	3	100%		
(2)	自分	11	6%	1	1%	10	8%	0	0%	主に妻 9.8%	主に夫 1.3%
	配偶者	4	2%	4	6%	0	0%	0	0%		
	夫婦共同	168	89%	58	87%	108	90%	2	100%	79.1%	
	その他	6	3%	4	6%	2	2%	0	0%	9.8%	
	合計	189	100%	67	100%	120	100%	2	100%		

前回調査では、女性（妻）の回答が最も高く51%でしたが、今回調査では夫婦共同が最も高く46%でした。

男女別でみると女性が担う割合が高いものの、育児における役割分担に変化が見られます。

b: 子どものしつけ・勉強

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	63	33%	1	1%	61	50%	1	33%	主に妻 37.1%	主に夫 2.6%
	配偶者	10	5%	10	15%	0	0%	0	0%		
	夫婦共同	114	59%	51	76%	61	50%	2	67%	43.0%	
	その他	6	3%	5	7%	1	1%	0	0%	16.6%	
	合計	193	100%	67	100%	123	100%	3	100%		
(2)	自分	6	3%	2	3%	4	3%	0	0%	主に妻 3.9%	主に夫 5.2%
	配偶者	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%		
	夫婦共同	180	95%	63	94%	115	95%	2	100%	83.2%	
	その他	4	2%	2	3%	2	2%	0	0%	7.7%	
	合計	190	100%	67	100%	121	100%	2	100%		

現状で「夫婦共同」と回答した割合が前回調査よりも高い59%となりました。男女ともに半数以上が夫婦共同で子どものしつけ・勉強を行っています。

c: PTAへの出席

		全体		男		女		性別回答無		H26男	H26女
(1)	自分	100	52%	6	9%	91	74%	3	100%	主に妻 58.7%	主に夫 2.0%
	配偶者	27	14%	25	37%	2	2%	0	0%		
	夫婦共同	39	20%	22	33%	17	14%	0	0%	19.3%	
	その他	27	14%	14	21%	13	11%	0	0%	19.3%	
	合計	193	100%	67	100%	123	100%	3	100%		
(2)	自分	7	4%	1	1%	6	5%	0	0%	主に妻 15.2%	主に夫 3.8%
	配偶者	9	5%	3	4%	6	5%	0	0%		
	夫婦共同	165	86%	59	87%	104	86%	2	100%	72.8%	
	その他	10	5%	5	7%	5	4%	0	0%	8.2%	
	合計	191	100%	68	100%	121	100%	2	100%		

前回調査同様、PTAへの出席は女性（妻）が担っている割合が高い状況です。また、夫婦共同が理想と回答した人は86%でした。

問26 家庭における子どもの育て方について、しつけ・教育で気づかっているものはなんですか。
 (男女各々3つ以内選択)

a: 男の子

	全体		男		女		性別回答無		H26
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
家事能力	28	5%	9	5%	19	6%	0	0%	1.5%
職業能力	19	4%	6	3%	13	4%	0	0%	6.1%
礼儀正しさ	115	22%	47	25%	67	21%	1	33%	18.2%
行動力	49	9%	18	9%	31	10%	0	0%	6.1%
たくましさ	27	5%	14	7%	13	4%	0	0%	6.1%
優しさ	99	19%	32	17%	66	20%	1	33%	21.2%
協調性	80	15%	32	17%	47	15%	1	33%	22.7%
自立性	72	14%	23	12%	49	15%	0	0%	6.1%
忍耐力	29	6%	10	5%	19	6%	0	0%	12.1%
合計	518	100%	191	100%	324	100%	3	100%	

b: 女の子

	全体		男		女		性別回答無		H26
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
家事能力	40	8%	16	10%	24	9%	0	0%	8.5%
職業能力	15	3%	6	4%	8	3%	1	17%	3.4%
礼儀正しさ	122	24%	46	27%	74	26%	2	33%	23.7%
行動力	35	7%	11	7%	24	9%	0	0%	0.0%
たくましさ	14	3%	9	5%	4	1%	1	17%	1.7%
優しさ	115	22%	38	23%	75	27%	2	33%	28.8%
協調性	77	15%	35	21%	41	15%	1	17%	22.0%
自立性	69	13%	22	13%	47	17%	0	0%	3.4%
忍耐力	23	4%	7	4%	16	6%	0	0%	8.5%
合計	455	88%	168	100%	281	100%	6	100%	

子どもの育て方について、男女ともに1位「礼儀正しさ」、2位「優しさ」、3位「協調性」という回答でした。

副問 子供の学歴は必要だと思いますか

a: 男の子

	全体		男		女		性別回答無	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
高等学校	69	22%	21	29%	24	20%	24	20%
専門学校	28	9%	4	6%	12	10%	12	10%
短大・高専	16	5%	2	3%	7	6%	7	6%
大学以上	183	58%	41	57%	71	58%	71	58%
その他	22	7%	4	6%	9	7%	9	7%
合計	318	100%	72	100%	123	100%	123	100%

H26男	H26女
44.0%	28.0%
12.0%	18.0%
8.0%	8.0%
32.0%	44.0%
4.0%	2.0%

b: 女の子

	全体		男		女		性別回答無	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
高等学校	48	25%	20	28%	27	23%	1	33%
専門学校	21	11%	7	10%	14	12%	0	0%
短大・高専	22	11%	4	6%	18	15%	0	0%
大学以上	87	45%	36	50%	51	43%	0	0%
その他	15	8%	5	7%	8	7%	2	67%
合計	193	100%	72	100%	118	100%	3	100%

H26男	H26女
34.8%	28.8%
8.7%	23.1%
17.4%	11.5%
34.8%	36.5%
8.5%	0.0%

「その他」の内容：特に学歴は必要だと思わない、子供の意思を尊重

子どもの学歴については、前回調査の男性の回答は男の子・女の子ともに「高校以上」が最も多くなっていましたが、今回調査では男女ともに「大学以上」が最も多くなりました。

問 19 自由意見

- 男の単身では参加しづらい
- 市役所は気軽に相談できる場所にする。役所的な考えではダメ。
- 私も夫も高齢者ですが働けるうちは身体と心のためにも社会とかかわり合って生きていきたいと
思います。退職して家にいる方々もそう思っていると感じます。そう考えている人々が集まれるよ
うな職場又は地域対策を望みます。
- 女性がすべて男性と同等の仕事をしたとは思っていないと感じるが、権利はあると思う。その
見極めをしないと法律や社会づくりが先行してしまい、男女ともに生きにくい社会となってしまう
可能性がある。しっかりと家事を分担している男性もいることをしっかりアピールしていくことも
大事だと思います。
- 地域ならではの慣習にしばられている部分が多いように感じる。不変で絶対的な価値観があるので
はなく、流動的で多様な価値観を尊重しあえる社会になれば良いと考える。
- 問 12 から DV の質問がありましたが、男女共同参画と DV がどのような関連があるか、私の認識
不足ではありますが、もう少し、詳しく説明があっても良かったのでは。"
- SNS 等による積極的な情報配信
- わからない
- 女性が家事育児、介護に縛られていて、社会で活躍できないのはほかにする人がいない・仕方がな
いという観念があり残念である。女性が自由に自分の時間を持てるよう社会が男性の意識を変えな
ければならないと思う。
- 男女共同参画という性を強調しているタームよりも、多様性・共生社会づくりをしたほうが良いと
思う。もはや、男女という枠組みからもう少し包括的な概念が必要と思います。
- 男女共同参画会議のメンバーはもっと実生活において一般的な人をもっと参加させるべきだと思
う。ただし会議のようぼうが、今後検討しますで終わらないことが必要で、何年で問題がクリアで
きるかという事が政治に必要だと思う
- 肉体的機能の優劣は致し方ありませんが、脳の機能および心理学的な男女の差がわかりません。故
に女性の地位の向上について脳を科学的に調べ、又、心理学的に検証する必要があると思います
- 学校教育及び社会教育を通じてのこの種教育の仕組充実
- 情報の過剰と価値の多様性という現代において増々選択の困難を感じる方もいらっしゃると思
います。価値の意味を知るためには個人個人の所謂常識や良識に（これまでかろうじて残ってきたも
のとしての）立ち返ることが必要なのではないのでしょうか。
- そもそもこの言葉自体今回初めて知りました。そのくらい浸透していません。若い世代の教育も
必要（小学校低学年の内から）ですが、40 代世代の親の世代にも、今の世の中を勉強する場があっ
ても良いと思う。その人たちが理解をしてくれないと私たちは生きづらい。今の 40 代はその間に
挟まれていると思う。
- 女性の職場を多く作り出すこと女性の働きやすい施設の整理と環境を進めてもらいたい。（現在は
不十分です）
- 男女、年齢関係なくいまやれることをやるのが社会を回す一歩になると思う
- 生物学的な体の違いに配慮は必要だと思いますが、少しずつ、男女が平等になり、ゆくゆくは、こ
のような男女平等への考え方そのものがなくなっても大丈夫な社会になること願います。

- LGBT の人たちのことを意識しすぎるのもどうかと思う。男、女それぞれにいいところがあるし、そうでなくとも（LGBT の人）分かり合えれば、それでいいこともあるから。
- 申し訳ございませんが、いまいち男女共同参画社会づくりの意味を理解できずちゃんとした返答になっているのか不安ですが、本気でアンケートに答えておりますので、ご理解の程よろしく願いいたします
- 30 年間も給料の上がない日本社会では、経済的余裕がない。この状態で男女参画社会の実現はできない。
- 滝沢市に結婚祝い金制度がなく、制度がある地域より家庭環境づくりにあまり力をそそいでいないのかなと思いました。
- 男女雇用機会均等法が成立してから 30 年以上がたつが、法だけがあるように思える。実現させたいなら、厳しい罰を設ければ良いと思う。
- 日本社会全体的にまだまだ男は仕事、女は家庭といった意識が強く共働き世帯も増えて来ているが、女性の負担が多い。特に 40 歳以降の男性で社会的地位の高い人に女を下に見る傾向が多いように感じる。まずは子育て世帯にもっと力を入れて対策をとるべきだと思うが、社会的地位の高い男性への教育も必要。また、幼稚園、保育園、小学校の子供たちへの性教育も含めた教育の大事。日本、さらに岩手若干遅れている。
- 自身が「女性だから、夫に言っても、やってくれないから」と考えていることが、共同というところまで、いけないと感じている。勝手に「役割分担」と、あきらめているような気がする。これは、やはり、幼いころからの、社会、教育の場での教えが大切だと思う。一度根がはった考え方を覆すのはなかなか難しいと思う。
- 滝沢市はどんどん農地がつぶされ、農業が崩壊に向かっている。また、大学生などの高等教育への進学率も低い。これらは、従来の男性優位社会も一因と思われる。これらをよく打開できるように男女共同参画社会作りが必要である。*後継者は男、女は大学不要の考え。現在の日本社会ではまだまだ「男女共同参画社会づくり」への方向性を確立することに時間が必要と感じる。
- まだまだ周りの理解がないと思う
- 「たきざわ輝きプラン 2」はじめて聞きました。浸透していないと思います。この意識調査は本当に改革しようとしている人が作っているとは思えません。市はもっと真剣に考えるべき。
- 男女平等や性についての理解は頭ではできているが、小さいころからの「男だから」「女だから」という考え方がしみついているためか、違和感を感じてしまう。そういったことをなくすため子供の頃からの男女平等や性についての学習を多目にとりいれてほしい
- 高齢者への支援が充足されつつあると思うが、若い人（小児も含め）が生活しにくい環境であると思われる。
- 企業によってではあるが、男性が育児介護関連で休暇を取ることに理解を示さないところも見受けられる（特に工場技術職、建設など男性が多い企業は、上司の個人的思考に左右される）女性が産育休を取得してもほかの同僚にしわ寄せがきてしまい、申し訳ない気持ちが強い。人材確保などのフォローがあつての福利厚生だと思う。
- やはり思いやりと協力が必要であると考えます。
- 男性、女性、性別問わず、みんなが働きやすく生活しやすい環境、社会になっていければいいなと思う。

- 1.この意識調査の狙いはH26年からの市民の意識の変化を把握することにあるのですが、選ばれた側からするとだいぶ無理な質問(答えようがないもの)が目立ちます。2.究極の行政施策は「男女共同参画社会実現の為、行政のトップを女性に担ってもらおう」ことだと思います。
- 近所の女性(60代)で、いろいろ活動している人がいますが、毎日のように出歩いています。家庭内の役割分担をしていると思いますが、大したもんだと思う反面、大丈夫かな?ご苦労様なことだと、冷ややかに見ている自分がいます。(同性だし昔風に考える自分がいる)
- 男女共同参画社会基本法...聞いて久しいが私の周り、職場では何も変わっていないと思う。中小企業は変わらない。
- 今の国の考え方は、子育ての面についても十分ではなく妊娠時は手厚くても子供を産み育てるとなると母の育児の負担を軽減してくれる施設は少なく、(一時預かりも金額が高い)、医療費も三歳から自己負担がかかる。給料も共働きでやっとのこの世の中で保育園料も0歳~2歳までかかるのでなかなか女性は休めない。国の制度から変えてほしい。
- 平等、共同などと言うけれど、体格差、身体の特徴からどうしても平等にできないこともある。あまり行き過ぎた男女平等を推進しないでほしい。正直みんながみんな社会に出て平等に働きたいとは思っていないので。
- 今でこそ、男女平等、育児休も男性が取れる時代だけどどれだけの人がとれているのだろう。女性は、やはり、心理的にも身体的にも負担が多いと思う。仕事と生活のバランス、男女共同参画社会、いろいろ難しいテーマだと思う。
- 地域密着
- ""共同""なら良いと思う。しかしなんでも""男女平等""は駄目だと思う。脳の仕組みも体の作りも違うのだからなんでも同じようにこなすのは不可能。女性は生理も出産もあるしどうしたって力は男性に劣る。能力に適した役割分担が必要だと思う。
- 50代の女性です。私の世代は、女性は育児、家事をするのが当たり前でしたが、息子が家事、育児に頑張っている姿は、新鮮でほほえましくさえ思えます。家事、育児に参加し、夫婦で協力してこそ、円満な生活がおくれるのかもしれませんが。共働きじゃないと暮らしていけない今の時代を恨めしくも思いますが。共働きである以上は、家族で協力し、相手を尊重する。思いやりが大事ですかね..心がけます!
- まだまだ国会でさえも男性社会である
- よくわからないが、男女問わず得意分野で活動できる周りの理解。そこにやる気と達成感が生まれ、活発な社会が生まれるのでは?と個人的には思っている。
- そもそも「男女平等参画社会づくり」がどのような活動を行っているか全体像の把握ができていません。講習会などを開催していただいても仕事などで参画できないことが多いので、いつでも読めるようなパンフレットを配布してもらえると嬉しいです。
- 子育て環境支援や介護支援に力を入れてほしいです。併せて保育士さんや介護さんの待遇改善が必要だと思います。
- 女性が子供を育てるのが当たり前になっていて、保育園も母が休みは、あずけないとなってる感じがそもそも母親の時間がない。母親も休みの日はリフレッシュする時間やスキルアップする時間が必要だと思う。今の保育園から見直してほしい。小学校や中学も月に何回かは学校で子供を見る日(土、日)などあればいいと思う。

- 職場で、独身者に夜勤をやらせるという話が出るが、男性に関しては、ただ単に独身だからなのに対して、女性に関しては、結婚している人は、旦那のご飯を作らなきゃいけないからとか、家のことをやらなきゃいけないからという理由で夜勤はなし。独身女性は世話しなきゃいけない人がいないからと、打診される。なぜここまで男中心に物事を考えるのか理解できない。このようなアンケートを会社名を記入させた上で、18歳以上全員にやらせていいと思う。誰にも気づいてもらえずに苦しんでいる人はたくさんいるはず。
- 明治時代に生まれた母親に育てられた妻は、「女はこうであらねば」といった固定観念を持っており、家庭内においても、自分の守備位置を守ろうとする気が優先して、家庭内で夫の入り込む余地が少ない。一面、幸せなことかもしれない。
- 官公庁等が行っているアンケートは、その後どの様に生かされているのかがまったくわからない。アンケート結果を集計するだけにならないことを希望します。
- どの世代においても、意識の変化の促しが必要だと思います。親世代は難しいので、子供の教育を。
- 産休後の会社（仕事）へのスムーズに戻れる環境になるとよいと思う。男性がもっと家事にかかわるようになると良いと思う。
- 公務員等が特にこういう考えが必要。
- 男、女、お互いを尊重する個々人の意識変革がまず必要だと思います。仕事より家族を大事にするファミリーファースト社会の実現をぜひ目指したいものです。（おおざっぱな意見ですが）
- お互いがやれる事をやって、やれないときは頼んで協力しあえばいいと思う。職場が休みを取りやすい環境を作ってくれば、男性も女性も家族や社会活動に参加できるのでは。誰もが休みを取りやすい環境を平等に休める法律を作してほしいです。
- 女性の研究者、技術者を増やすためには、子育て環境の充実（ソフト・ハード両面）、復帰後のキャリア支援プログラムの充実が不可欠。
- 直接関係するか分からないが市内の公園の遊具を充実させてほしい。夫が休みの日、近くの公園には遊具がないからという理由をつけて子供を公園に連れて行かないことがある。盛岡や他の市町村より充実していないのはなぜか。大人も子供も喜ぶような公園を増やしてほしい。
- 子育て支援の強化、ほかの市町村に比べ、子育てがしにくい環境になっているため、対応が必要。
- 身近にDVを受けて離婚している方がいますが、加害者側の家族にも問題があり、DVをする本人だけの問題ではないだけに難しいです。価値観はそれぞれと言いながら、他者に危害を加えても平然としている。親世代も野放しにして…。何か報復を恐れることなく、こういう一族の価値観も改めるきっかけになるものが出来上がるといいなと思います。
- 仕事面で、過剰に意識しすぎて、結果女性が優遇されて公平性が損なうことになってはいけないと思う。
- このような参画計画のことを知らないで過ごしてきました。世の中の移り変わりの変化に対応できるよう、自分自身のアンテナを高くしていきたいと思いました。事件ばかりの情報、コロナ禍で特に異なる年代の方との会話の機会が少なく何を考えているか理解できないうちです。外面と内面のこともあるしアンケート結果楽しみです。
- 具体的には思いつかない。見止めてやるより見止めてもらえる行動が必要だ！
- 制度を整えるのもいいが、子育てに関するサービス（給付金含む）や施設を増やさないと何も解決しないと思う。

- 男女共同参画についての研修会（オンライン）に参加したことがあります。始めは、女性がこぶしをふりあげ""男女平等～！！""と叫ぶ内容と思っていましたが、男性に対して共働きだとこんなに良いよ、そのためにはお互い育児や家事をやろう！女性はすごいんだよ、とか面白く楽しく説明しているものでした。若い男性がみたらいいのになどその時感じました。企業で男性向けに研修会をやればいいのに…。男女共同参画は女性が前へどこか進むのではなく、男女一緒にやりましょうという感じだと思います。性別をなくしたり、無視したりすることないと思う今日この頃です。
- 教育活動における男女の区別の仕方を考えるべき。子供の選択の自由があまり感じられない。社会的に考え方、理解が浸透していないのは事実だから、難しいところではあると思うが。
- 古い習慣による女性社会参画への障害が無くなる事は当然として、男女共同参画社会作りを進める中で逆に女性が優遇される場面が増えてきているとも感じる。本来は実力主義成果主義に基づいて競争されることが理想で男女を問わず優秀な人材が貢献できる社会を目指すべきではないか。
- 出産、育児に対する経済的補助の充実と周知が必要という意見をよく耳にしますし、必要と感じます。自身は出産、育児の経験がなく、実感としてはありませんが、出産、育児をしないという選択をしている理由の一つは経済的な不安であるためです。
- 時代に合わせた考えを持つ
- 男→女だとセクハラだとか問題になるケースがたくさんあるのに、女→男何を言っても何をやっても許されるケースが多いのはなぜですか？女ばかりが損をしているという考えは間違っています。性別で区切るのがおかしいです。
- 関東の首都圏からの移住者です。岩手以外の他県のことを知っている人の意見や違いをもっともっと聞いたほうが良いと思います。男女だけじゃない格差もたくさんあります。老若男女が暮らしやすい岩手県を作りたいです。移住は失敗だったと思い、再度元の首都圏へ戻る予定です。子供たちがみんな戻りたいと言っているからです。みんなが住んで良かったと思える岩手県なら良かったのにとっています。
- 子供を産み育てられる社会になってほしい
- こんなとこに金かけなくてもっと良いとこにかけたほうが良い。本当にこのアンケートは考慮されますか？
- 画一的な男女平等ではなく、男性、女性各々の多様性も認めていく事も必要なのでは。又、女性の社会参加（政治や管理職等）をパーセントで決めるのは、それ自体が差別と感じている。
- 今の男女共同参画社会づくりは決められた多様性を押し付けている。どのような、多様性でも認め合える環境が必要だと考える。
- 地域社会、家庭、職場の三つが必要となる取り組みの重点化し、明確化を図り、より実効性のある計画などを進めてほしい。（三位一体）
- 滝沢市の男女共同参画の取り組みの成果、課題を広報やセミナー、講演会等で周知し、男女共同参画の全市民の意識を高めてほしい
- まずは市役所職員さん全員がワークライフバランスをとって男女が平等に活躍する家庭生活を実現させそのうまくいった方法を広めてほしい
- 問1にある「男性らしく」「女性らしく」という差別や偏見はあってはならないことだと思いますが、区別は必要だと思います。あたかも全ての女性は外で働きたい、男性は家庭の仕事をやりたくないというのは少し違うと思います。昔はとは言いますが今もさほど変わっていないと思います。

男性が外で働き、女性は家の仕事にプラスでパートもしている方も沢山いると思います。女性が働きやすい世の中になることも大事ですが、男性も専業主婦の方があっている人も世の中にはいると思います。性別関係なく自分にあった働き方をしていける世の中でそういう多様な生活の形、働き方があっても何も思わない、言われない理解がある世の中になることが大事だと思います。また、問4で仕事をするうえで女性の存在について男性にとって対等なパートナーという選択肢がありますが、ほかの選択肢を考えた上でこれが一番まともな気がしますが、この選択肢でも違和感がありました。なぜなら、男性であっても女性であっても性別が同じだけで考えがすべて一括りにされるのは間違っていると思います。仕事をするうえで、女性はどうのような存在かという問いでも男性にとっても、また女性が女性にとっても対等な存在という選択肢があってもいいのではないかと思います。最後に男性、女性とありますが働き方改革があるにもかかわらずすべて改善されていないので、そこから見直す必要があると思います。

- 平等なんて求めてたら世の中がまわらない
- 今後も見返りを求めず生きていきます。
- 働き方改革の見直し
- 少し前の時代に比べたら、学校の参観日や行事に両親でくる人が増えたと思います。育児において、クラブ活動や習い事などの送り迎えも母だけではできないので、旦那さんが協力している家庭も多いと思います。しかし、今現在問題になっているのは一人親家庭なのではないかと思います。女性である母親には制度が充実しているのかもしれませんが、男性の父親だけの家庭はどうなんでしょうか。男性、女性と分けずに、一人親家庭の見直しも必要かと思います。未来の子供たちのためにも。
- 具体的な活動結果がわからない、成果が見えない。アンケートに同封すべき。他市町村と比べ仕事が遅いで有名であるが、他にやるべき仕事があると思います。子育て支援も弱く、市民に寄り添った社会づくりをお願いします。封筒のサイズも非常識で民間ではありえない。